

夏休み明け 全校集会 校長挨拶

夏休み前の集会で、「命を大切にすること」、「自分探しをすること」、「目標を立てることの価値を知ること」この3点を皆さんにお話ししました。

さあ、君たちはどんな夏休みを過ごしましたか？

今日は、どのような気持ちでこの日を迎えましたか？

まず、私にとってもっとも大切だったこと。

「命を大切にする」

これを君たちが達成してくれたことに心から感謝します。

そして、もし、自分探しと目標の設定ができていたら、この上なくうれしいです。

さて、先日、合唱祭のとき、私は合唱が大好きだと言いました。その理由をもう少しお話しします。

私たちには、「自分にできることとできないこと」があります。

ですから、「自分の足りないところは誰かが補っている」と気付けることが、まずは大切なことだと私は考えます。

ところが残念なことに、私達はそのことに意外と気付かない。

自分は完璧だと言わんばかりに相手の欠点を指摘したり、相

手のことを考えずに、簡単に不平不満を口にしてしまいます。

そもそも、私も君たちも、誰一人として完璧な人はいない。

世の中も矛盾ばかりで落とし穴だらけです。私たちの周りは何もかも、足りないところばかりなんです。

そんな不完全な私たちが世の中で生きていくには何が大事か。

私は、せめて自分にできることは一生懸命に行い、誠意をもって生活することを心がけていきたいと考えています。

こういう心持ちを積み重ねていくうち、私は「自分のできないことを補ってもらっていること」に感謝できるようになりました。

もし、すでに君たちが、保護者や先生、友達に対して、湧き上がるこの感謝の気持ちを抱けているとしたら……。まだ中学生ですが、あなたはすでに、社会を構成できる人間として自立できる「大人」の段階にいます。

でも、まだ「周りに人に感謝できない」「そういう感謝を感じたことがない」という人もいるはず。

安心してください。

様々な体験をし、周りの人のお陰で自分は生きている、と感じる機会が増えていけば、必ず感謝できるようになります。

そうして、また自分にできることを精一杯頑張る。とにかく最善を尽くす。お互いに足りないところを補い合って、支え合う。いつか、君たちの周りでお互いに「ありがとう」が行き交うようになると、住み良い社会が作り上げられていきます。

住みよい社会では感動を分かち合うことができる。

悲しみを半分にもできる。

苦しい気持ちを一緒に抱え合うこともできる。

一方、お互いを支え合っているという心持ちがなければ感謝はなかなか湧いてこない。相手に求めてばかりでは不満ばかりが募っていくのは当たり前です。そんな不安な気持ちのままでは心に安らぎは訪れないし、日々の生活で感動も味わえません。

前置きが長くなりました。

合唱は、まさにその社会づくりと同じなのです。

私の声はソプラノやアルトのパートは出せません。

でも、私は男性パートの音は出せる。

だから、まずは自分が一生懸命に歌うこと。

その音を相手に聞かせ、お互いに響かせ合い、相手が一生懸命

に歌っている姿を信じ、自分も一生懸命に歌声で返す。

相手が精一杯取り組んでいることを信じているから、安心して自分も精一杯の声で歌うことができる。

そんな風に作り上げていった合唱は、素晴らしい合唱になるし、周りの人と感動を分かち合えるのです。

君たちは、その「感動を分かち合える合唱」を作り上げた。

君たちは自分たちの姿で、「素晴らしい社会生活を作り上げられる」と証明して見せた。

実は昔、合唱のような行事は「競争」でした。以前の学校は、何でもかんでも競い合って優劣を決めていました。

想像してみてもほしいのだけれども、今回の合唱がもし、学年対抗のコンクールだったら…………。

他の学年の歌声に一喜一憂し、勝つか負けるかに振り回され、最優秀賞を取れば満足、取れなければ悔しがり、それまで作り上げた合唱が否定されたような気持ちになる。自分たちの努力に価値を見いだせなくなる。

昔は、そんな心の狭い、つまらない思いしか味わえなかった人も多かったはずです。

実際、私もそうでした。最優秀賞を取れば報われ、取れなかったときは本当に悔しくて、合唱が嫌になったこともありました。相手を気にして優劣を競いあったために、自分たちの創りあげた合唱の尊さから心が離れてしまいました。それまで皆で創りあげたかけがえのない時間が、無駄な努力になり、一気に色あせたように感じました。

勝ち負けにこだわったばかりに、君たちの作った合唱祭の感動にたどり着くことができなかつたのです。いや、少し違うかな。たどり着いていたはずなのに、気付くことができなかつたのです。

もう一度確認します。

私たちは自分自身ができないことがある。お互いにできないことがある中で、相手に勝つことに目が向き、相手よりも優位に立つためだけに競い合うことは、悲しく、残念な結果を生むだけです。そんな社会づくりは、これからはやめなければならないと私は考えています。

「きょうそう」という言葉があります。

おそらく、君たちが思い浮かべる漢字は「競争」ですよ。

今日の集会から、ぜひ、この「共創」という漢字も思い浮かべられるようになってほしい。

優劣を競争するばかりでは、より良い社会は創れません。

自分の至らないところを自覚し、その足りない部分を相手に補ってもらっていることに感謝し、共に素晴らしい社会を創っていかねばならない。

「競争」から「共創」へ。

これからも皆さんと先生方、そして保護者の皆さん、地域の皆さんと共に創り上げる唐桑中学校を目指していきましょう。